

サーサナ

第31号 仏暦2558 (西暦2015) 年6月1日

帰敬式の意義

仏教2500年の歴史の中で、様々な国・地域で様々な宗派が生まれました。宗派が異なれば、教義や経典も異なります。しかし、釈尊在世の時代から今日に至るまで、あらゆる地域で、すべての宗派を通じて共通に伝えられている教義・行儀があります。教義でいえば三法印（諸行無常・諸法無我・一切皆苦）、行儀でいえば三帰依（三宝帰依）がそれです。

自ら仏に帰依したてまつる（ブツダン・サラナン・ガッチャーミ）

自ら法に帰依したてまつる（ダンマン・サラナン・ガッチャーミ）

自ら僧に帰依したてまつる（サンガン・サラナン・ガッチャーミ）

帰依とは、依りどころにする、という意味で、「仏・法・僧の三つの宝をもって自分の人生の根本にしよう」という決意表明になります。

この三帰依は、仏教の在家信者にとっての原点です。ここでいう原点とは三つの意味があります。

- 1 仏教史上で最初の在家信者は三帰依によって生まれた、という事実
- 2 仏教徒にとって一番大切なこと
- 3 仏道を歩むための第一歩であり出発点ということ

真宗大谷派において帰敬式とは、釈尊以来の伝統に基づいて三帰依を表白する儀式です。そして、三宝に帰依したことを証明するため、法名が授与されます。俗名が世俗社会（穢土・娑婆）を生きる上で必要な名告りであるとするれば、法名は浄土に往生するために必要な名告りであるといえましょう。法名には仏様の願いがこめられています。曾我量深という先生が「法名をいただくとは二重国籍になる」とおっしゃったことがあります。娑婆と浄土の二つの世界に生きる、ということです。この身は煩惱一杯でありながら、かたじけなくも釈尊の御弟子の一人にさせていただく、そのことによって私の心身になにがしかの光明がひらけてくるのです。

この大切な帰敬式を受式なさるよう、心から願うものです。

法要行事のご案内

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。肩衣とは浄土真宗の仏事における正装で、本山また当寺でも授与することができます。

六月 帰敬式（おかみそり）

- ❖日時 6月28日（日）午前11時～正午
- ❖受式費用 20,000円（うち10,000円は本山礼金）
費用は28日当日お納めください
- ❖受式希望の方へ
6月11日（木）までに仮申込をしてください。（電話、メールなどで可）
必ず事前説明会に参加してください。6月13日（土）午後1時から3時です。
事前説明会后に、正式申込書に記入していただきます。
- ❖記念品を用意いたします。
- ❖法名に希望の文字があれば、御相談に応じます。

八月 盂蘭盆会（うらぼんえ、お盆）

もともとは、釈尊の弟子の目連尊者が、餓鬼道に堕ちた母を救うために、安居（集中講義）の終わる7月15日に、大勢の出家僧侶に飲食物の供養を行なったことに由来する行事です。

- ❖日時 8月13日（木）午前8時～9時
- ❖内容 勤行（和訳阿弥陀経、正信偈同朋奉讃）、法話（住職）
- ❖持ち物 勤行本（『抄訳佛説阿弥陀経』『正信偈同朋奉讃』）
- ❖記念施本 『人生は丹精』（仏教伝道教会）

盂蘭盆会について個別（家族単位）でのお勤めを御希望の場合は、次のいずれかにより予約して下さい。お経は「阿弥陀経」（音読）です。

1. 本堂でのお勤め

8月14日午前8時より正午まで、15分刻みで御希望の時間を指定していただきます。先着順です。十六家族様まで。

2. 家庭の御内仏前でのお勤め

(1)13日午後、(2)13日夜、(3)14日午後、(4)14日夜、(5)15日午後、のいずれかの時間枠をご指定下さい。午後とは1時から4時まで、夜とは5時から8時までをいいます。これ以外の日時は応相談。

清掃・おみがき奉仕

皆様方のご奉仕をお願いしております。終了後はお茶とお菓子でおくつろぎ下さい。

❖6月12日（金） 午前8時～9時 境内草取り（雨天中止）

ユニセフ募金

4月10日、皆様からお預かりした浄財1,822円を公益財団法人・日本ユニセフ協会へ振り込みました。累計では212,236円になりました。ありがとうございました。

永代経懇志お礼

下記の方々から永代経懇志を頂戴いたしました。ここにあらためてお礼申し上げますと共に、今後とも法義相続されますことを願いたします。

2014年8月27日	釋敏慧童女（願主・岩田様[緑区神沢]）
2014年10月13日	顯誠院釋善靖（願主・寺島様[天白区元八事]）
2015年4月12日	釋尼久照（願主・伊藤様[茅野市]）
2015年5月9日	浄明院釋尼澄清（願主・村田様[富田林市]）

永代経懇志をお納めいただきますと、有縁の故人様（またはご当人様）の法名を、本堂左の門徒総法名軸に書き入れ、長きにわたり顕彰いたします。金額はお一人10万円以上となります。また、現金ではなく仏具・法衣の類を寄進される場合も永代経懇志としてお受けいたします。

院号法名および収骨について

院号法名を希望される方は6月末までにご相談下さい。院号法名は本山に申請して授与されます。予め8万円以上（ただし帰敬式受式されていない場合は10万円以上）の相続講金をお納めいただく必要があります。

また本山収骨についても6月末までにお申し込み下さい。こちらは12万円以上の相続講金をお納めいただく必要があります。

6月末としたのは、会計年度上の問題です。これを過ぎたら受け付けられないわけではありません。ただ、取扱いを翌年にさせていただくことがあります。

（相続講とは本山を財政的に支える組織で、相続講金額に応じて種々の賞典があります。院号授与や本山収骨はそれら賞典のひとつです。）

御遠忌法要ご懇志について（中間報告）

「真宗大谷派名古屋教区・名古屋別院 宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要」のため、皆様にご懇志をお願い申し上げたところ、5月11日現在、105名の方々より706,000円をお寄せいただきました。まことにありがとうございます。

教心寺ライブラリーから（4）

当寺ライブラリー（書庫）は、どなたもご利用いただけます。

『釈尊と親鸞：インドから日本への軌跡』

（龍谷ミュージアム編、法蔵館、2011年）

京都の西本願寺の真向かいに、龍谷ミュージアムという博物館があります。2011年に開館した仏教総合博物館です。その名が示すように、龍谷大学が蓄積してきた研究成果や貴重な学術資料などにより、仏教の誕生から現代の仏教までの流れを展示しています。そのミュージアムの開館記念として、また親鸞聖人750回御遠忌法要の記念として開催された特別展「釈尊と親鸞」のダイジェスト版図録が本書になります。

執筆者は龍谷大学の研究者総勢26人。釈尊の生涯と教え、経典の成立、大乘仏教の展開、浄土教の成立、仏教の伝播、親鸞聖人の生涯、真宗の教え、真宗教団の成立、などの広範囲にわたる百科全書的概説書でもあります。豊富な図版は理解の助けになります。

なお、龍谷ミュージアムでは平常展示のほか、随時企画展示を行っており、8月11日からは「三蔵法師 玄奘 迷いつづけた人生の旅路」が開催されます。



真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弍（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 FAX：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
